

母体死亡、妊娠、死亡原因、年次推移、リスク因子、背景1

2006～2010年における妊娠関連母体死亡率はそれ以前と比較し上昇し、心血管障害や感染などによる死亡の増加が関わっているものと思われる。妊娠関連死亡の検知率が向上してきていると思われるが、妊娠関連死亡に対する慢性疾患の関与の上昇は妊産婦におけるリスクのプロファイルの変化を示唆するものである。

Pregnancy-Related Mortality in the United States, 2006-2010

Creanga, Andreea A.; Berg, Cynthia J.; Syverson, Carla; Seed, Kristi; Bruce, F. Carol; Callaghan, William M.

Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):5-12

【文献番号】 o10200 (母体死亡、妊産婦死亡、母体合併症)

逐次空気圧迫装置、術後血栓症、予防処置、準拠率、帝王切開、婦人科手術2

逐次空気圧迫装置の術後使用のコンプライアンスは約58%で、患者教育や看護師の教育などを試みてもコンプライアンスの改善は得られなかった。

Sequential Compression Device Compliance in Postoperative Obstetrics and Gynecology Patients

Brady, Megan A.; Carroll, Ashley W.; Cheang, Kai I.; Straight, Celeste; Chelmow, David

Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):19-25

【文献番号】 g07520 (婦人科手術、術後合併症、術後癒着、術中合併症)

夜間頻尿、女性保健、中高年、発現頻度、リスク因子4

夜間頻尿は女性によく認められ、必ずしも尿路系の異常がかかっているわけではない。膀胱機能とかかわらない因子が夜間頻尿とかかかっている可能性があり、多臓器を対象とした予防や治療の戦略が必要と思われる。

The Burden of Nocturia Among Middle-Aged and Older Women

Hsu, Amy; Nakagawa, Sanae; Walter, Louise C.; Van Den Eeden, Stephen K.; Brown, Jeanette S.; Thom, David H.; Lee, Sei J.; Huang, Alison J.

Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):35-43

Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):35-43

【文献番号】 g05400 (泌尿器科疾患、排尿障害、先天奇形、検査、処置)

性器脱、完全性器脱、嵌頓、症例報告7

66歳の多産婦の女性が腹痛、1日間の尿閉、30日にわたる便秘を訴えて来院した。患者には完全な骨盤臓器の嵌頓が認められ、性器脱を修復することはできなかった。手術室で便を摘出し一時的な減圧のために産科的バルーンを用いた。嵌頓した性器脱に対し段階的に治療を行い、始めは嵌頓に伴う急性症状を軽減するために脱出した臓器の体積の減少をはかり、最終的にはベッサリーを用いて修復した。患者の状態から考え脱出を一時的に改善するために産科用バルーンを用いたが、その後に確かな結果を得るためには手術が必要となった。

Complete Proctocentesis: Temporizing Treatment With an Obstetric Balloon

Sanghani, Reesha; Rice, N. Trent; Zimmerman, Carl W.

Obstetrics & Gynecology. 125(1):56-57, January 2015.

【文献番号】 g05100 (性器脱、便失禁、尿失禁、骨盤臓器脱、合併症、リスク因子、処置)

子宮外妊娠、ART、リスク因子、胚移植数8

ART後の子宮外妊娠の発生率は低下してきているが、複数の胚移植を含む要因が子宮外妊娠のリスクの上昇に関与しているのではないかとと思われる。

Risk of Ectopic Pregnancy Associated With Assisted Reproductive Technology in the United States, 2001-2011

Perkins, Kiran M.; Boulet, Sheree L.; Kissin, Dmitry M.; Jamieson, Denise J.; for the National ART Surveillance (NASS)

Group

Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):70-78

【文献番号】 r02600 (子宮外妊娠、ART合併症)

子宮内膜症、ART、臨床成績、生児出生率、臨床的妊娠率、流産率、文献的レビュー10

子宮内膜症の有無別にみたARTにおける生児出生率はほぼ同様な値であった。しかし、重症子宮内膜症と診断された場合にはARTの成功率の低下が認められた。ARTを施行する前にルーチンに手術を勧めるべきか否かという点に関して十分な根拠は得られていない。

Influence of Endometriosis on Assisted Reproductive Technology Outcomes: A Systematic Review and Meta-analysis

Hamdan, Mukhri; Omar, Siti Z.; Dunselman, Gerard; Cheong, Ying

Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):79-88

【文献番号】 r11200 (子宮内膜症、診断、治療、病態、チョコレート嚢胞、合併症)

子宮内膜癌、リスク因子、遺伝的要因 11

子宮内膜癌あるいは大腸癌が第1度近親者に認められる女性においては、それらの家族歴を有しない女性と比較し、子宮内膜癌を発症するリスクは有意に上昇する。子宮内膜癌のリスクについて女性に情報を提供する際に今回の研究結果は有用である。

Family History and Risk of Endometrial Cancer: A Systematic Review and Meta-analysis
Win, Aung Ko; Reece, Jeanette C.; Ryan, Shae
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):89-98

【文献番号】 g02600 (子宮内膜癌、子宮体部腫瘍、子宮内膜増殖症、子宮肉腫、子宮内膜過形成)

腹腔鏡下手術、子宮細切法、子宮筋腫、電動モルセレーター 14

子宮の良性疾患であっても開放性電動モルセレーターを用いて子宮細切法を試みた場合臨床的に問題となる子宮病巣の播種を引き起こすことがある。

Surgical Cytoreduction for Disseminated Benign Disease After Open Power Uterine Morcellation
Ramos, Amanda; Fader, Amanda N.; Long Roche, Kara
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):99-102

【文献番号】 g07520 (婦人科手術、術後合併症、術後癒着、術中合併症)

双胎妊娠、予定帝王切開、試験分娩、経膈分娩、周産期死亡、新生児合併症 15

妊娠36週以降の双胎妊娠例において陣痛発来前の帝王切開による分娩と比較し、陣痛発来後の分娩に伴い低酸素症、第2子の5歳児に達するまでの死亡率の上昇などを含め児の臨床結果にネガティブな影響を認める割合は上昇した。しかし、満期あるいは満期に近い時点における合併症を伴わない双胎妊娠における絶対的な死亡率は低く、母体の合併症なども考慮してバランスのとれた選択が必要である。

Association of Prelabor Cesarean Delivery With Reduced Mortality in Twins Born Near Term
Roberts, Christine L.; Algert, Charles S.; Nippita, Tanya A.; Bowen, Jennifer R.; Shand, Antonia W.
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):103-110

【文献番号】 o07100 (双胎妊娠、双胎児間輸血症候群、胎児発育不均衡)

ART、一卵性双胎、単一胚移植、分割期胚移植、胚盤胞移植 18

単一胚移植後の一卵性双胎の発現率はday5～6移植群においてday2～3移植群よりも上昇した。assisted hatchingを試みた場合においてはday2～3の移植例において一卵性双胎のリスクは上昇した。

Trends and Correlates of Monozygotic Twinning After Single Embryo Transfer
Kanter, Jessica R.; Boulet, Sheree L.; Kawwass, Jennifer F.; Jamieson, Denise J.; Kissin, Dmitry M.
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):111-117

【文献番号】 r02500 (多胎妊娠、胎児減数手術、多胎妊娠回避法、胎児自然喪失)

北アメリカ胎児治療ネットワーク、勧告、一絨毛膜双胎、合併症、TTTS、TRAP、TAPS 22

一絨毛膜双胎においては時に生命を脅かし、児の健康状態にリスクをもたらす合併症が発現することがあり、さらに周産期合併症や周産期死亡のリスクの上昇を伴うこともある。TRAP(twin reversed arterial perfusion)や一絨毛膜双胎あるいは結合体のような一絨毛膜双胎に伴って発現する異常は妊娠第1三半期に診断することができる。TTTSやTAPSあるいは選択的胎児発育不全のような異常には継続的に頻回に系統的検査が必要で、それによって早期にまたタイムリーに検知することができ、地域の専門医療センターに紹介することで、総合的カウンセリングと予後の改善をはかるための対応も可能となる。

The North American Fetal Therapy Network Consensus Statement: Prenatal Surveillance of Uncomplicated Monochorionic Gestations
Bahtiyar, Mert Ozan; Emery, Stephen P.; Dashe, Jodi S.; Wilkins-Haug, Louise E.; Johnson, Anthony; Paek, Bettina W.; Moon-Grady, Anita J.; Skupski, Daniel W.; O'Brien, Barbara M.; Harman, Christopher R.; Simpson, Lynn L.; for the North American Fetal Therapy Network
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):118-123

【文献番号】 o07100 (双胎妊娠、双胎児間輸血症候群、胎児発育不均衡)

妊娠合併症、妊娠性高血圧性疾患、脳卒中、リスク因子24

妊娠性高血圧疾患のために入院となった患者が伝統的な脳卒中のリスク因子を有する場合には脳卒中のリスクは上昇した。妊娠高血圧性疾患に伴う脳卒中の調査で2つの特徴が認められ、1990年代中ごろ以降における頻度の顕著な上昇と脳卒中に伴う合併症の発現率の明らかな上昇である。

Hypertensive Disorders and Pregnancy-Related Stroke: Frequency, Trends, Risk Factors, and Outcomes
Leffert, Lisa R.; Clancy, Caitlin R.; Bateman, Brian T.; Bryant, Allison S.; Kuklina, Elena V.
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):124-131

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

BMI、周産期合併症、母体合併症、体重減少、受胎前カウンセリング26

周産期の臨床結果のリスクを低下させるために、患者に到達可能な体重減少を妊娠前の体重減少のカウンセリングにおいて伝える必要があることを示唆するものである。

Risk of Adverse Pregnancy Outcomes by Prepregnancy Body Mass Index: A Population-Based Study to Inform Prepregnancy Weight Loss Counseling
Schummers, Laura; Hutcheon, Jennifer A.; Bodnar, Lisa M.; Lieberman, Ellice; Himes, Katherine P.
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):133-143

【文献番号】 o12210 (妊産婦管理、高齢妊娠、若年妊娠、肥満、糖尿病、運動、抑うつ)

妊娠、分娩、BMI、体重、肥満、過体重、分娩後体重貯留、リスク因子33

分娩後の体重の貯留は妊娠前の体重が正常であった女性を含め分娩後年の時点における肥満のリスクと有意な関係が認められた。分娩後の変更可能な行動パターンは肥満のリスクを低下させる可能性がある。

Postpartum Weight Retention Risk Factors and Relationship to Obesity at 1 Year
Endres, Loraine K.; Straub, Heather; McKinney, Chelsea; Plunkett, Beth; Minkovitz, Cynthia S.; Schetter, Chris D.; Ramey, Sharon; Wang, Chi; Hobel, Calvin; Raju, Tonse; Shalowitz, Madeleine U.; for the Community Child Health Network of the Eunice Kennedy Shriver National Institute of Child Health and Human Development
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):144-152

【文献番号】 o12210 (妊産婦管理、高齢妊娠、若年妊娠、肥満、糖尿病、運動、抑うつ)

腔形成術、McIndoe法、プロテーゼ、産科用バルーン34

産科用バルーンはMcIndoe法による腔の形成術のモールドとして使用できるのではないと思われる。

Obstetric Balloon for Treatment of Foreshortened Vagina Using the McIndoe Technique
Raukty, Aubrey; Parikh, Pranay; Harmanli, Oz
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):153-156

【文献番号】 g07600 (手術関連事項)

子宮奇形、重複子宮、経膈分娩、帝王切開35

重複子宮を有し帝王切開の既往のある患者において試験分娩を試み経膈分娩に成功した例に遭遇した。

Uterine Didelphys and Vaginal Birth After Cesarean Delivery
Altwerger, Gary; Pritchard, Ashley M.; Black, Jonathan D.; Sfakianaki, Anna K.
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):157-159

【文献番号】 o04800 (異常分娩関連事項)

死産、リスク因子、遺伝学的検査、microarraytest、抗リン脂質抗体、胎児発育不全、胎盤所見 ...36

今回の文献の紹介においては、死産に関する5篇の論文を取り上げた。それぞれに以下のような重要なメッセージが込められていた。論文1：死産の頻度を減少させるためには原因について理解を深め、リスクのある妊婦を特定し管理する必要がある。論文2：死産に関わる遺伝子異常を調べる上で、核型分析と比較しmicroarrayDNA分析が優れている。論文3：抗リン脂質抗体の検査は、特に原因が明らかとされていない死産において考慮すべき検査である。論文4：10パーセント未満のSGAや90パーセント超のLGAにおいては死産のリスクは上昇する。論文5：死産後の胎盤の検査は胎盤の病理検査に関する特別な知識と経験を有する病理専門家に委ねる必要がある。

What Is New in Stillbirth?: Important Recent Articles
Andrews, William W.
Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):160-161

【文献番号】 o10100 (周産期死亡、死産、胎児死亡、新生児死亡、乳児死亡、新生児合併症)

インフルエンザ、妊婦、褥婦、ワクチン、診断検査38

インフルエンザは妊婦や褥婦において重篤な合併症や死亡の原因となることが明らかにされているが調査の対象となった大部分の妊産婦はワクチンの投与を受けていなかった。インフルエンザシーズンにおいてはインフルエンザが疑われた妊婦は速やかに経験的に有効とされる抗ウイルス療法をインフルエンザの診断検査の結果やワクチンの投与の有無にかかわらず受けるべきである。

Pregnancy and Severe Influenza Infection in the 2013-2014 Influenza Season

Louie, Janice K.; Salibay, Catheryn J.; Kang, Monica; Glenn-Finer, Rose E.; Murray, Erin L.; Jamieson, Denise J.

Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):184-192

【文献番号】o01700 (妊娠、細菌性膣症、クラミジア、ヘルペス、ウイルス感染、GBS、HIV、感染症、MRSA)

好中球減少症、妊婦、リスク因子、臨床結果40

今回の観察研究の結果、妊娠中に重度の慢性好中球減少症が認められた女性にG-CSFの投与を試みたとしても有害事象の発現率に有意差は認められなかった。

Use of Granulocyte Colony-Stimulating Factor During Pregnancy in Women With Chronic Neutropenia

Boxer, Laurence A.; Bolyard, Audrey Anna; Kelley, Merideth L.; Marrero, Tracy M.; Phan, Lan; Bond, Jordan M.; Newburger, Peter E.; Dale, David C.

Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):197-203

【文献番号】o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

補完代替医療、CAM、安全性、有効性、根拠42

補完代替医療 (Complementary and Alternative Medicine, CAM) を使用しているものが多いにもかかわらず安全性や有効性に関して確かな根拠が示されていない。CAMは妊娠第3三半期にも広く用いられているが、以前から使用していることがCAMを使用する独立した要因となっていた家族や友人がヘルスケアの専門家以上にCAMを使用する上での意思決定に関わっていることが危惧された。

Use of Complementary and Alternative Medicines During the Third Trimester

Pallivalapila, Abdul Rouf; Stewart, Derek; Shetty, Ashalatha; Pande, Binita; Singh, Rajvir; McLay, James S.

Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):204-211

【文献番号】o12400 (妊娠、代替療法、漢方、生薬、サプリメント、市販薬)

ワクチン接種、妊婦、胎児、小児、公衆衛生、産科医療43

アメリカにおいてワクチン接種によって適応となる疾患を根絶あるいは減少させ寿命を延長させてきた産婦人科医は女性、特に妊婦に対してワクチンの接種を担うことができる適任者である。ワクチンによって、肺炎球菌疾患、A型およびB型肝炎および水痘などは過去10年間に劇的に減少した。しかし、年間5万人もの成人がワクチンで予防可能な疾患およびそれに伴う合併症で死亡している。ワクチンの接種率が高まればワクチンで予防可能な疾患を排除することもできる。妊娠中の予防接種は母親、胎児および小児を守るためにルーチンの産科のケアに取り入れる必要がある。すべての妊婦にインフルエンザワクチン、ジフテリアワクチン、弱毒破傷風トキソイドおよび百日咳ワクチンなどが勧められる。産婦人科医は妊婦の教育とワクチンの実施に積極的な役割を果たす必要がある。

Vaccinations for Pregnant Women

Swamy, Geeta K.; Heine, R. Phillips

Obstet Gynecol. 2015 Jan;125(1):212-226

【文献番号】o12200 (免疫、感染、生体防御、ワクチン)
